



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

秋田県 北秋田市立合川中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 荻原 次晴 先生 (スキー／ルディック複合)【出場オリンピック／長野大会】

■ **期 日** : 2022年6月10日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年1組、2組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・1998年長野大会にスキー／ルディック複合(ジャンプとクロスカントリーの2種目を行う)で出場したと自己紹介。クロスカントリーは様々な競技の選手も冬季トレーニングとして取り入れる等、バランス感覚を鍛えるにはとても良いトレーニングなので、皆も是非挑戦してほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



・主運動は、滑走リレーを実施(全2回)。班毎に分かれ、片足にモップシューズを履き、もう片方の足は床から離さずに滑る。折り返し地点のコーンを回って戻り、次走者に繋ぐ。2回目は、折り返し地点で、モップシューズを反対の足に履き替えるルールに変更して実施。



・運動の時間を振り返り、滑走リレーでは、最後の人がゴールした時に、皆で拍手を送っている姿がとても印象的で、オリンピックに通じるものがあった。座学の時間はオリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つの価値について、皆と一緒に考えてきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 荻原 次晴 先生 (スキー／ルディック複合) 【出場オリンピック／長野大会】

■ **期 日** : 2022年6月10日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年1組、2組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



・競技映像を見ながら自己紹介を行った後、双子の兄がオリンピックで金メダルを獲得し、その兄に間違われたことがきっかけで、オリンピックを目指した。今振り返ると、兄を妬んだり、母に反発したり、他人のせいにしていたことを反省し、兄の存在があったからこそオリンピック出場という夢を持ち、実現できたことに改めて気付くことができた。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：学校生活や日常生活の中で感じることを、オリンピックバリューに当てはめてみよう。
 発表：エクセレンス：「勉強や部活動、習い事で良い成績を収めることができるように努力する」等
 フレンドシップ：「団体行動では皆と協力する」「学校行事や大会で相手のことを考えて接する」等
 リスペクト：「家族に感謝する」「普段授業をしてくれている先生に感謝する」等



・オリンピックバリューは、皆の中に自然に備わっている。オリンピックは、ただ強い人を決める大会ではなく、オリンピックを戦う人がどんな努力をしたか、最後まで戦えたか、仲間を大切に、仲間を作ることができたか等を伝える大会だ。そしてその大会を見る人が、そのことを感じ、考えることが大切だ。以前皆と同じ中学生に「強い選手と弱い選手の違いは何か」と聞かれ、「強い選手とは、弱い選手の気持ちを考えてられる人、弱い選手の気持ちに寄り添える人、困っていたり辛い思いをしている人に声を掛けられる人」と答えたと話す。ぜひ、皆も強い人になってほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

・2年1組、2組



■ 記念品贈呈

・2年1組、2組



■ 修了証贈呈

